



◀現地に出向いて調査

調査の中で当時のことや現在感じておられる不安についてお話を聞く機会が多くあり、その気もちに寄り添うことを心がけました。誰かに話す機会もなく、聞いてもらっただけでも心が晴れましたと笑顔を見せてもらえる場面もありました。また、お断りをする際もただ断るのではなく一緒に解決方法を考えるのが大事だとあらためて地域のコーディネーターから教えてもらいました。人に寄り添い、背中を押せるのも人です。その場かぎりではなく、明日の生活につながるような後押しが大切だと知りました。災害VCの運営支援の派遣は、はじめてでしたが、各地から集まり同じ思いで協力できる社協の強みを感じました。その一方、支援はどうしても短期間になってしまう

第32クール(5月27日～6月2日)
 現地調査班 櫻津市社協
 地域福祉課 主査

ほしむす
本庄 あゆみさん

問し、現地を確認しながら、聞き取りを行います。具体的なニーズの再確認やそのニーズが、ボランティアで対応が可能なであるかなどの調査を行っています。

息の長い支援を

～能登半島 被災地支援～



令和6年1月1日、石川県内で最大震度7が観測された「令和6年能登半島地震」発生から半年以上が経過しました。被災地社協では災害ボランティアセンター（以下、災害VC）が設置され、今もなお被災者ニーズに応えています。今回は、近畿ブロック内の社協が支援に関わった七尾市災害VCについて、その取り組みと支援に関わった大阪府内の社協職員のふりかえりの声を紹介いたします。

● ボランティアをコーディネート マッチング班の役割

「マッチング班」は、ボランティアをしてほしい方々とボランティアをしたい方のコーディネートをしています。具体的には、ニーズに応じて活動日の調整や依頼内容の再確認、ボランティアの方々のグループ핑ングやそのグループに応じた当日の活動の行程表の作成を行っています。また活動後には、各グループからの報告を受け、それぞれのニーズについて継続・終了などの把握を行っています。

第30クール(5月19日～5月25日)
 マッチング担当
 寝屋川市社協 生活支援課

たにくち てるあき
谷口 皓章さん

ボランティアの方に、いつ、どういった活動を行ってもらうのかを調整し、また活動中のフォローなどを行いました。私自身は直接、被災された方と接することはありませんでしたが、ボランティアの活動の先には、被災した住民がおられることを意識して、ていねいにコーディネートすることを心がけました。自社協では、生活困窮者自立支援事業の相談員をし

● 被災地社協の意向と支援者を総括 派遣チームのリーダーの役割

近畿ブロックからの派遣メンバーのコーディネーター役であるクールリーダー。災害VCの運営の進行管理や七尾市社協との連携、調整、各役割の全体調整やサポートなどを行っています。

第25クール(4月29日～5月5日)・クールリーダー
 泉大津市社協 地域総務課・総括主査

つんだ もとのぶ
植田 元伸さん

リーダーとして、被災地社協の意向を汲み取り、他市町の派遣メンバーとコミュニケーションを積極的にとるよう心がけました。各セクションでは支援Pの運営支援者と連絡を取りあい、的確なアドバイスを受けられたことは大変重要でした。ブロック派遣では約1週間でスタップが代わるため、現地の状況を理解し、活動に慣れているボランティ

ており、日々ボランティアと関わることは多くはありません。はじめてのブロック派遣で災害VCの支援を経験し、ボランティアの方々と通して間接的に被災者の支援を行うことで、ボランティアの皆さんの力やありがたさをあらためて実感しました。

● 災害廃棄物を整える 仮の仮置き場

七尾市では災害廃棄物を12種類に分別する必要があるため、廃棄物の仮置場へ持ち込む前に分別。スムーズに仮置場へ持ち込めるように「仮の仮置き場」において整理を行っています。ボランティアの方々の協力のもと、災害廃棄物の解体・分別などを行い、仮置き場への運搬を行っています。

第26クール(5月3日～5月9日)
 仮仮置き場班 太子町社協
 地域包括推進室・主査

よしたか けんじ
吉高 賢司さん

運ばれてきた災害廃棄物を解体、分別していくことは、現地の方と接する機会も少なく、一見地味な支援です。しかし、災害廃棄物を

アの力は貴重です。テント村に滞在する方々をはじめ、ボランティアの方には感謝しかありませんでした。今回特筆したいのは、現地のボランティアと災害VCスタッフなどの連絡ツールとして使用する「パディコム」です。リアルタイムな情報共有やボランティア全員の動向が瞬時に把握でき、とても有効でした。

派遣期間が連休中ということもあり、ボランティア数、活動件数ともに増えた期間でした。そのような中、派遣メンバーが昼夜問わず意見交換を重ね、「笑顔」と「感謝」を届けたという思いで一致団結し、支援に携われたと感じています。

● 息の長い支援のために 私たちができること、それは、被災地に寄り添いつづけ、できることから

府社協職員有志による ボラバス第2弾を 運行しました!!

府社協は、5月29日(水)に近畿ブロックとして運営支援を行う七尾市災害VCで、13名の職員有志がボランティア活動に取り組みました。前日に府社協を出発。当日は他県からこられたボランティアといっしょにグループを組み、災害廃棄物の搬出や家具の再設置、家屋内の掃除などを行いました。まだまだ復旧・復興の最中であることを実感。息の長い支援の取り組みに活かしていきます。



パディコムで把握

パディコム
 リアルタイムなコミュニケーションを支援するサービス。スマートフォンやタブレットなどで音声や映像をリアルタイムで複数人に対して配信でき、位置情報なども共有できる。

支援P
 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議の略称。企業・社会福祉協議会・NPO・共同募金会が協働するネットワーク組織。2004年の新潟中越地震の後、2005年1月より中央共同募金会に設置。

すすめていくことだと思えます。府社協は、これからも、市町村社協や会員施設、関係団体とともに、被災地支援に取り組んでいきます。

現地調査班

ボランティアの依頼があった家に訪

ニーズの現場を訪問し、詳細を把握
 現場の声を聴き、それを反映していくことは災害VCを運営していくうえで大切なことだと感じました。

住民のご自宅から運ぶことで、生活の場を整えることになり、生活を再建する一歩となります。仮置き場で活動をするボランティアの皆さんには、間接的に地域の復興を後押しする大切な支援だとしていねいに伝えるようにしました。
 分別できないものは依頼者に返さないといけないため、依頼者もボランティアも複雑な思いをします。仮置き場にいることで、その実態をボランティアの方から直接聞き、どうすれば円滑に回収できるかを話しあうことで、活動前のオリエンテーションなどを改善するきっかけとなりました。



ルールに従って細かく分別▶